

同志社大学・けいはんな産学交流会

府内中小企業が、けいはんな地域の学術拠点の一つである同志社大学の研究シーズと接する産学交流の機会を提供し、教授等との人的ネットワークの構築、共同研究・開発への発展等を通じて、企業の技術力の向上・新たな技術開発と活力ある創造的な企業群形成を支援するため、平成14年より、「同志社大学・けいはんな産学交流会」を開催しています。

(主催:京都府中小企業技術センター、財団法人 京都産業21、社団法人 京都経営・技術研究会、けいはんな新産業創出・交流センター、同志社大学、同志社女子大学)

[交流会 開催報告]

平成19年11月19日に、本年度第1回の「同志社大学・けいはんな産学交流会」を、同志社大学学研都市キャンパスで開催しました(同志社大学リエゾンフェアと同時開催)。本交流会では、平成20年4月に開設予定の「生命医科学部」「スポーツ健康科学部」に関わりある研究を中心に、同志社大学のシーズ発表を行いました。その概要を紹介します。



■講演1「モーションキャプチャを用いた身体動作研究」同志社大学文化情報学部 阪田真己子専任講師

同志社大学学研都市キャンパスにある、アジア最大級の「動作解析実験ゾーン」及びそこに設置されている「モーションキャプチャシステム」の紹介と、これらを用いた研究成果について講演いただきました。これまでの研究は「スポーツ・健康科学分野」「医・工学分野」「芸術・情報科学分野」に大別でき、投球動作時の肩周辺の筋肉の変化の解析、高齢者のための身体動作分析、日本伝統芸能の身体技法(わざ)の定量化などの研究成果を紹介いただきました。

■講演2「高齢者の“こころ”と“からだ”の総合的健康評価の試み」

同志社大学スポーツ健康科学部設置準備室 竹田正樹教授

高齢者の生命・健康を支える「こころ」「栄養」「体力」の総合的診断方法の研究及び診断ソフトウェアの開発成果について講演いただきました。診断ソフトウェアには、総合的な判断が容易に行えて、かつ理解しやすく受容できるものとするための様々な工夫・試みが盛り込まれていることをうかがい知ることができました。また、当診断方法を用いた高齢者の転倒経験と体力との関係に関する研究成果も紹介いただきました。

■講演3「伝統薬物から新しい分子種(シード化合物)の発見を目指して」同志社女子大学薬学部 中村憲夫准教授

医薬品の80%以上が天然物由来または天然物質をシード化合物にしたものであることから、抗HIV活性を有するシード化合物を、伝統的な天然の薬物から探索し抽出した研究について講演いただきました。「把豆(はず)」及び「文冠木(ぶんかんき)」の成分から抽出した物質を評価した結果、HIV-1ウィルスの増殖抑制剤及びプロテアーゼ阻害剤のシード化合物の候補物質が見出されたことを紹介いただきました。近い将来、同志社発の薬が生まれるかもしれないという期待を感じました。

■講演4「アルツハイマー病の発症を抑える～ γ セクレターゼのコントロール～」

同志社大学生命医科学部設置準備室 井原康夫教授

アルツハイマー病の発症を抑える薬の開発研究について講演いただきました。アルツハイマー病は、まずA β 42(アミロイド β -プロテイン42)が着床し、これが老人斑となり、さらに神経原繊維変化を生じ発症へとつながります。講演では、 γ セクレターゼのコントロールによるAPP(β -アミロイド プレカーサブプロテイン)の分解を制御し、老人斑の原因となるA β 42の生成を選択的に阻害することで、アルツハイマー病を予防する薬の開発の試みを紹介いただきました。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
けいはんな分室

TEL:0774-95-5027 FAX:0774-98-2202
E-mail: keihanna@mtc.pref.kyoto.lg.jp